

外部評価への対応報告書

この度は、中国学園大学・中国短期大学外部評価委員として本学の教学及び経営に関して貴重なご意見・ご提案をいただき、大変感謝しております。

いただいたご意見・ご提案を真摯に受けとめて、以下のような改善・充実を図っていかうと考えております。

引き続き、本学の教学及び経営につきまして、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

1. 本学の教育活動・教育課程に関する改善・充実に向けて

<中国学園大学>

- ・「授業に対する学生の満足度が高いことは素晴らしい。アドミッション・ポリシーにあるような「学びたい」「身につけたい」という意欲を持った学生たちなのだろうから、楽しく学べて「知識を深められた」と実感できるような授業を実践してほしい。」(7頁)との指摘がある。このことから、各期末に実施する授業評価アンケートを必ず確認し、課題となる部分については各教員で工夫改善する取組をさらに強化する。
- ・「教職員に授業内容や学習に関する相談をした学生が少ないのは問題ではないか。一人一人の学生と向き合って個別対応するのが本学の伝統である。授業についていけない学生もいるので、丁寧な学習支援に取り組んでほしい。」(7頁)との指摘がある。このことから、Google classroomのフォームを使って授業の理解度を確認したり、学生の理解が不十分な点は次の授業でフィードバックを返したりするなどの工夫をさらに強化する。
- ・「国際教養学部は何が売りなのかがわかりにくく、どんな就職先になるのかイメージしにくい。ガイドブックもカタカナが多く、数字が少なく、写真もわかりにくい」(3頁)という指摘がある。国際教養学部は何が売りであるのか、どんな就職先になるのかを大学案内やミニガイド等の広報物やHPを通して分かりやすい表現を用い、写真等にも注意を払って発信する。また、「高校生に英語ができないとダメだと思われて敬遠されている。」(3頁)と指摘されているが、実際は大学に入ってから英語力増強を図ることができるプログラムであるため、実情が伝わるように高校生にオープンキャンパスやガイダンスを通して伝える。
- ・岡山企業が求める人材、特にグローバル人材やマネジメント力及びデータ・サイエンス系の力量を持った人材を育成できるよう、国際教養学部では、英語が苦手な高校生にもアピールできるよう「社会で役立つ実践ビジネス英語教育」を前面に出し、一般的な教養としての英語教育ではなく、ビジネスシーンで役立つ実践的なビジネス英語を提供するように改善に取り組む。

<中国短期大学>

- ・総合生活学科では、教育課程を見直し、卒業に必要な単位数を見直し、今までの68単位を62単位とする。さらに、教育内容が重複する科目を減らすことで教員の負担を減らす。これによって、業務の効率化を図り、学生と向き合う時間をより多く確保する。
- ・保育学科では、学生による授業評価を活用して、教育活動の改善に努める。

- ・情報ビジネス学科は情報処理や経営学・マルチメディア・ビジネス実務といった代表的な分野の他に、心理学・簿記会計・データサイエンスなど様々な学修が出来る学科である。代表的に現在の学科名を使用しているが、より魅力的な学科名を検討していきたい。また、現在、ソーシャルメディアやクロスリアリティ、ITパスポート試験対策講座などカリキュラムの充実を検討中であり、令和5年度入学生より適用できるよう準備を進めている。

<教務部>

- ・3つのポリシーに照らして学生の学修成果の獲得状況を把握するために、アセスメント・ポリシーを策定したが、このポリシーに基づく状況把握、達成状況、検証等の手法を教職員がしっかり理解して実施していくことが求められている。その際、客観的なデータの収集と分析・評価、そしてそれに基づく改善の取組が求められており、IRセンターと連携して教育の質保証に取り組んでいきたい。
- ・教育課程委員会で3つのポリシーの再検討、全学的な教育課程の見直しを進めるとともに、各学部・学科で教育課程の充実・改善に取り組む必要がある。高校生にとって魅力的で、安心して学べる教育課程を提供できるように努力する。

<図書館>

- ・学生が学習に活用できる蔵書構成や専門書、雑誌の整備等を推進する。新入生オリエンテーションと授業にリンクした図書館情報リテラシーを強化していく。

2. 本学の学生の活動や学生支援に関する改善・充実に向けて

<中国学園大学>

- ・一人ひとりの学生の満足度を上げるために、学生の学修状況、出席・単位取得や学生生活などの情報を一元管理し学科全体で対応できるような仕組みを作り上げていく。
- ・部活動やサークル活動は大学生活において教育的観点から見ても重要な活動であるので、より一層の支援や広報を充実させる。
- ・学生寮は学生勧誘の点や自主的な生活を育む教育面においても非常に重要な施設であると認識しており、学生が快適かつ充実した生活ができるように設備や規約の改善を行う。
- ・卒業生の子弟や兄弟の在学生がいる場合の奨学金制度については、あまり周知できていないようであるので周知を徹底しアピールする。
- ・障がい学生においては、通学が困難だったり、大勢の環境で授業を受けたりすることが困難になる学生が多いようなので、授業を対面とオンラインのハイブリッドで行ったり、オンデマンド授業の充実を検討する。
- ・「学生が教職員に相談することが少ないというアンケート結果は気になる。例えば、オフィス・アワーはただ研究室にいて対応する時間を確保するだけでなく、積極的に学生と面談する時間としてはどうか。」(3頁)との指摘がある。子ども学部では1年次生には年間2回の個別面談を担当が行っている。また、2年次生以上で大学生活に不安を持つ学生や成績不振の学生等に個別面談の時間を設けている。更に、保育所実習、小学校・幼稚園教育実習の前後には各実習担当者が実習生を対象に個別面談を行い、実習状況の把握に努めている。今後もこのような個別面談の実施体制を継続していく。
- ・国際教養学部は、学生と教員の距離が近く、相談しやすい体制になっているが、より学生たちが話しやすい工夫を行う。そのため、アカデミック・コモンズという部屋を整え、学生が講義の合間に滞留し、交流できるスペースとしている。また、今後、企業と提携を進

め、インターンシップ先の整備を進めていく。

<中国短期大学>

- ・総合生活学科では、学生の「やる気」を出させる支援においては教員と学生の接する機会（コミュニケーションの場）が重要だと考え、各教員が積極的に学生と接する機会を図る。授業についていけない学生には担任を中心に担当教員が情報を共有しながら丁寧な学習支援に取り組んでいる。
- ・保育学科では、オフィス・アワーの時間だけではなく、学生にとって良いタイミングで教員に相談できるようにしている。また、配慮が必要な学生が多いため、多様性や人権等の視点を踏まえた教育活動に取り組むとともに、合理的配慮が必要な学生に対しても適切に対応する。公立保育士の受験を応援できるように、入学直後に公立受験の道があることの情報を提供し、公立受験を希望した者には約1年半にわたり合格に向けた支援をする。
- ・情報ビジネス学科では、従来実践型体験学修を数多く行ってきたが、昨今はコロナの影響もあり、ほとんど実施できていない。今年度は11月のジャズフェスティバル、12月のくらフェスへの参加を予定しているが、更に多くの体験の場を提供するべく努力する。

<学生部>

- ・コロナ禍の中で学生が主体的に参画する活動が十分できない状態が続いているが、充実した大学生生活が過ごせるために、学生が主体的に参画する活動や課外活動への支援を強化するように学生生活委員会及び学生生活向上委員会で検討していく。
- ・中国学園の魅力の情報発信やアピールを強化するために、「部活動やサークル活動の成果」「学園独自の奨学金制度」「合理的配慮の実施」等を学園のアピール点として、これまで以上にホームページ等で情報発信し、学園のイメージアップに努める。

<就職支援部>

- ・「就職支援では、・・・公立の保育士になる実績をつくってほしい。」（3頁）とある。これについては、現在就職支援委員会委員と連携して面接指導等を実施している。今後、さらなる実績づくりのために、「①公立の保育士を希望する意識づけに協力する」「②就職支援センターの一カ所に計画的に自習学習ができる環境づくり」「③採用試験対策問題集の取り揃え及び貸与」「④各自治体の「エントリーシート」「自己PR表」記入の指導及びそれを基にした面接練習」「⑤学生の希望する自治体の学内説明会の実施」等を、子ども学部子ども学科及び短期大学保育学科と連携して実現するように取り組む。

<入試広報部>

- ・学園独自の奨学金等の制度について広報資料の中に記載されてはいるが、見落とされがちであると感じている。注目をされやすい内容に絞って、発信することの重要性を感じている。抜き刷り、焦点化したチラシなどを検討したい。
- ・女子バレーボール部や「岡山市魅力不思議探検隊」の活動等、学生たちの素晴らしい活動について発信することは受験生に強く訴えかけるとともに、一般的な学園のイメージアップにも貢献するものであり、学内の士気向上にもなる。プレスリリース、WEBサイトなどいろいろな形で発信していく。

3. 本学の教職員・学園経営・地域連携に関する改善・充実に向けて

<中国学園大学>

- ・高大連携は高等学校との良好な関係を作るためにも最重要である。高大連携の取り組みを強化すべく、各教職員レベルで高校との連携開拓・強化を進める。高等学校訪問の際には、高大連携プログラムとその実績について資料を元に説明している。
- ・地域貢献活動は本学にとって重要な活動である。清掃活動などは、学生だけではなく教職員が地域の方々とともに活動することを考えている。
- ・「地域とつながる上で、教職員の「あいさつ」は重要である、事務の方々は笑顔で挨拶して下さり好感が持てるが、教員は・・・。「あいさつできる教員」になってほしい」（7頁）との指摘がある。教員はもっと「あいさつ」を心がけ、地域交流を深めていく必要がある。

<中国短期大学>

- ・保育学科は、岡山県立岡山南高等学校と協定を結び、この1年で一定の成果が出ている。今後、さらに高等学校との連携協定を結んでいきたい。他学科でも、高大連携を通して高校の教育活動に参画しているが、その回数は十分ではない。今後、入試広報部と連携して、高校生と直接的な接点のある活動を充実させる。
- ・保育学科では、岡山市消防局との連携を継続し、イオンモール岡山のイベント会場、池田動物園、ファジアーノ岡山のホームゲームなどで、親子に防火カードゲームを使った防災教育のボランティアを行う他、出前講座、各種イベント等、保育学科として地域連携を様々な場面で実施し、宣伝活動を行う。

<事務部>

- ・法人全体のプロジェクトとして、「私立大学等改革総合支援事業」の選定を受け、新たに特別補助の獲得と一般補助の増額を図ると共に「教育の質に係る客観的指標による増減率」の向上、あわせて産学連携、企業等との共同研究、寄付金の受入れを促進し、増収に繋げる。
- ・人件費の適正化に向け、人員配置の見直しと共に業務の効率化を図り、収入規模に対応した支出を目指す。昇給等については、的確な収入見込額を算定のうえ、前年比収支改善状況を検討の上、弾力的に対応する。勤務形態、業務処理内容の見直しによる労働生産性向上、時間外手当等の適正化により、総人件費の適正化を図る。
- ・教育研究経費支出については、より特色のある大学づくりに向け、各事業のスクラップ&ビルドを徹底する。継続・新規事業共に必要性・有効性・優先度等の観点から、予算の自己点検を行い、新規要求は既存事業を見直し、必要額の財源を明らかにしたうえで充当して行く。
- ・管理経費支出については、予算編成・執行に際し、先例にとらわれず、費用対効果、個別金額、個別内容の妥当性を十分検討し、不要不急の支出は厳禁とする。
- ・中期計画上の施設設備拡充・整備事業計画に必要な資金を確保するため、中長期的な収支差額の見通し、単年度収支差額の状況を精査し、優先順位を明確にし、計画的に老朽化した校舎・設備の更新および機器の導入等、教育研究環境の充実に努める。

<入試広報部>

- ・現在、出張講義の形で高大連携を図っており、高校側からの希望で本学に来学しての教育活動も複数校の例があるが、十分なものとはなっていない。各学部・学科の特性に応じたもう一步踏み込んだ高大連携の推進を図るように取り組む。

<図書館>

- ・地域の教育関係機関と連携し、さらに図書館から情報を発信していく。そして、地域に輝く図書館をめざしていく。

4. 本学の広報や学生確保に関する改善・充実に向けて

<中国学園大学>

- ・入試内容がアドミッション・ポリシーに基づいていることを明確にし、広く発信する。
- ・ホームページの学部紹介の情報が古いので新しい情報に変更し、閲覧者の利便性を重視したかたちに改善する。スマートフォン・サイトも見やすく改善する。
- ・ゼミ活動やPBLにおける学生たちの取組について、SNSやHP、高校訪問等を通してより積極的にPRする。
- ・各教職員による高校訪問時は進路課への訪問のみならず、3年団の先生や関係性の深い教員との面会を積極的に行い、学部の内容など細かい取り組みについてPRするとともに、高校側のニーズを聞き取り、出前講座や講演会などの実施につなげる。
- ・インスタグラムの内容の充実と更新を重ね、常に新しい情報を充実させ発信予定である。

<中国短期大学>

- ・アドミッション・ポリシーについて、オープンキャンパス等で丁寧な説明する。
- ・学科独自のミニガイドを作成し、オープンキャンパスや高校訪問等を通じて配布する。
- ・インスタグラム等のSNSの内容充実と更新を重ね、常に新しい情報を充実させ発信する。
- ・「大学案内」は、大学と短期大学を別冊とし、それぞれを充実させることを検討する。
- ・オープンキャンパス参加者の受験率が高くなっているため、オープンキャンパスの参加数を増やすよう、SNS等により大学への精神的なハードルを下げることを継続する。さらに、webオープンキャンパスの早期実現に取り組む。
- ・保育学科では、連携協定校を作り、1・2年生から保育や幼児教育の出前授業の機会をつくり、保育への進路希望者を増やすこと、家政科や農業科の教員との距離を縮めて本学への理解と信頼を得ることを新たな広報戦略として実施する。

<入試広報部>

- ・本学をめざす高校生にマッチした各学部・学科の特色・魅力を、各学部・学科と情報交換しながら広報していく。
- ・令和3年度に大学も短大も入学者数が減ったことについては、詳細な分析と対応策を検討している。それを踏まえた広報活動を推進していく。
- ・「入試広報については、まず「大学案内」が十分になく、教員や生徒に十分行き渡っていないため、新しい情報が届いていない。昔の情報で判断されている。ターゲットになる高校生として普通科が想定されていて、専門学科の高校生へのアピールが弱い。例えば、ガイドブックの写真の生徒の多くは普通科出身である。専門学科の生徒に選ばれるようなアピールの仕方が求められる。」(4頁)との指摘がある。各高校へは先方の希望を聞きながら「大学案内」を配布しているが、状況に応じて適切に対応していきたい。普通科校生をターゲットとして想定しているわけではないが、結果としてそう見えてしまっている。専門学科の生徒にとって専門学科での履修内容と関連が深い、現在の専門的な学習を進展させられるなどといった形で本学の魅力が受け止められるように発信の仕方を工夫したい。
- ・「入試については、総合型選抜を重視することではないか。オープンキャンパス時の個別面談もいい。学校推薦型の指定校推薦は、指定校で出すメリットがないとみんな総合型選抜で受験することになる。もっとメリットを打ち出してほしい。」(4頁)の指摘があるので、学校推薦型選抜(指定校)の持つ重みと教育的な価値に見合うメリットを検討する。

- ・「入試対策、例えば、小論文の採点のポイントや願書の書き方等を進路課に教えてほしい。高校側が自信をもって指導できることが重要。」(4頁)との指摘があるので、個別の問い合わせにお答えすることで対応していきたい。
- ・本学ホームページについては、サイトで注目して欲しい事項を「TETORI」を利用して、押しつけに感じられないように配慮しながらポップアップで見えていただくようにしているが、さらなる改善が必要と自覚している。

<教務部>

- ・学生や地域に向けて、良い取組をしているにもかかわらず高校、高校生や地域の人々に伝わっていないので、広報活動の内容と方法の改善に取り組む必要がある。アイススケートショーの一員に選ばれたり、全日本ボウリング選手権大会へ出場する学生がいるので、そういった学生のすばらしい活動についても発信していく。
- ・卒業生の情報や高校の進路指導担当や塾の先生が中国学園にどんなイメージを持っているか、何を専門的に学べる大学・短大と認識しているのか等の情報を収集し、全学的に共有して、広報戦略を考える必要がある。

<図書館>

- ・オープンキャンパスにおいて、図書館企画を計画・実施し、高校生に図書館の魅力が伝わるように努力する。